

平成 23年度 山梨県立富士見支援学校旭分校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	子どもたちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	---

本年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の形成と自立心の育成に努めながら、社会性の伸長を図る。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4 良くてきている。
	2 分かりやすい楽しい授業の実践をとおり、達成感や自己肯定感を育む。		B 概ね達成できた。(6割以上)		3 できている。
	3 適切な教育課程の編成と実施に努め、前籍校復帰、進路希望の実現を図る。		C 不十分である。(4割以上)		2 あまりできていない。
	4 前籍校や医療機関との連携を図りながら、センター的機能を発揮する。		D 達成できなかった。(4割以下)		1 できていない。

自己評価			年度末評価(1月18日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	基本的な生活習慣の形成と自立心の育成に努めながら、社会性の伸長を図る。	①児童生徒の実態に応じた生活指導を継続する。	個別指導の徹底 生活安全教室の実施	生活安全教室や自立活動の指導の時間などを通して、個々の生徒の実態に沿った生活指導を実践出来た。	B	・自立活動の時間を中心に個別指導を実施し成果を得たが、生徒数が増えた場合の個別対応に課題がある。
		②マニュアルを活用した自立活動の段階的支援を行う。	学部会で継続審議 段階の共通確認	・「段階別指導マニュアル」を活用した自立活動の支援は、マニュアルが個々の生徒に対応するものでなく、十分ではなかった。		・さらに各生徒の実態把握に努めるとともに、マニュアルの活用に関する検証、マニュアルの改善、追加等を行う。
		③児童と教師、児童生徒間での交流を促進する。	特別活動・ふれあい 活動の充実	・ふれあい活動や諸行事への参加を通して社会性を育てる試みは、個々の生徒の特性もあり、十分な成果をあげられなかった。		・集団への参加が難しい生徒に対する個別対応を含め、早期に計画を立案し「集団活動」を展開する。
2	分かりやすい楽しい授業の実践をとおり、達成感や自己肯定感を育む。	①個別の指導計画と評価の一体化に取り組む。	教科会議の充実。 指導計画と評価の検討。	・教科会議を中心に、お互いに情報を共有することで評価項目に基づいた評価や課題点を明らかにすることが出来た。	B	・学習内容や支援方法など情報の共有化をすすめるとともに、欠席の多い生徒に対する評価方法について検討する。
		②分かる授業の実践を進めるために、教科会議の開催や教材研究・指導法の工夫を推進する。	教科会議の充実。 指導計画と評価の検討。	・月一回の教科会議の他にも、日常的に話し合う場面を設け、指導に活かす事ができた。		・校内での授業相互参観などの機会を増やし、教材や指導方法について、教科の枠を超えて情報の共有化をすすめる。
		③ICTを活用した授業実践に取り組む。	生徒用アンケート実施。	・実践が緒に就いたばかりで、試行錯誤の段階にある。		・効果的な指導方法についての情報収集を続けるとともに、実践をとおり、本校生に効果的な活用方法を蓄積する。
3	適切な教育課程の編成と実施に努め、前籍校復帰、進路希望の実現を図る。	①教育課程の実践・検証を行い、学年のねらいを明確化する。	学年会の充実	・学年会、学部会、教科会議を連携させて、教育課程の改善検討を行っているが、個々の生徒に応じた実践には課題がある。	B	・引き続き、生徒個々のニーズに応じた教育課程の編成を継続するとともに、指導効果の検証をすすめていく。
		②前籍校の進路指導の情報を把握し、分校での支援に生かす。	前籍校との連携	・前籍校連絡会や担任どうしが連絡を密に取って情報を共有することで、協力する態勢をつくる事が出来た。		・前籍校との連携をさらに深めるとともに、「キャリア教育」の視点を加えた、1年次からの継続的な指導を推進する。
		③児童生徒の実態を把握したうえで、個別の支援課題や支援方法を検討する。	学部会で具体的な支援の確認	・学部会を中心に実態の報告や、支援についての情報を共有化することが出来た。		・学部会などを生かした情報の共有化をさらにすすめる、多くの視点から、支援の課題や方針が立てられるよう努める。
4	前籍校や医療機関との連携を図りながら、センター的機能を発揮する。	①定期的な医療情報交換会や前籍校連絡会を開催する。	定期開催の点検	・定期的または必要に応じた医療情報交換会や前籍校連絡会を開催し、支援に関する具体的な内容を全職員で共有化出来た。	B	・各連絡会を定期的開催し、得られた情報を共有化する取り組みを継続する。
		②個別の教育支援計画の作成と活用を図る。	作成マニュアルに沿った進捗表で点検	・作成スケジュールを管理することで、作成率を向上することが出来た。		・引き続き「個別の教育支援計画」の作成率の向上に努めるとともに、活用についても検証していく。
		③コーディネーターを中心に相談支援の充実を図り、その知識や技能を職員全体の資質向上に役立てる。	相談支援部からの情報発信	・北病院との連携を密することで、教育相談が増加するとともに、相談内容を職員に知らせる事で、相談業務や相談内容の共有化を図ることが出来た。		・外部や在校生に対する支援態勢を継続するとともに、職員の資質向上に対する効果的な支援方法について検討したい。

学校関係者評価	
実施日(平成24年2月16日)	
評価	意見・要望等
3	・児童生徒の実態を考慮すると、社会性の伸長を図ることは大変重い課題だと思います。マニュアルを活用した支援や活動設定の工夫など、積極的に取り組まれていると思います。 ・個々の子供の発達状況、また家庭状況等、必要とする支援は非常にばらつきが大きいと思われる。それに十分対抗するには、マニュアルが本当に必要なのか再度ご検討いただければと願っています。子供が貴校で学ぶと言うことの意味を、原点に戻って検討されることをお勧めします。 ・個別指導を行うことで、各生徒への実態に応じた生活指導が出来ていると思います。マニュアルの活用は生徒をみても困難かなと思いました。 ・是非個別支援計画を充実した内容に作成し、実践していただきたいと思っています。少人数の中、活動を通して社会性を築くことは、大変だと思いますが、少人数を生かして密な関係作りをしていただきたい。
4	・教員間の情報共有が図られ、授業相互参観など実践の質の向上にも積極的に取り組まれています。効果的な指導法については、校内研究として知見を蓄積していただく事を期待します。 ・貴校に在籍している生徒さんたちは、原籍校だけでなく、それ以前から学ぶことの意味や、学びが自分の人生とどのように関わっているのかという視点など、十分に実感を伴った理解が十分なままになっていくのではないかと推測されます。そのことを踏まえた学習のあり方を再度ご検討ください。これまで小・中学校で行われていた教育方法ではない「新教育方法」の開発にも努めていただきたいと思っています。 ・先生方がよく話し合って、個別の学習指導を行うことが出来ていると感じました。 ・個別の支援計画を立てても、欠席の多い生徒がいるとお聞きして、先生方も評価しづらい苦労があるのかと思います。教科会議を充実したものに、先生方の評価方法の検討を早期に実現できるようにして欲しいと思います。一人一人に達成感や自己肯定感を育むよう実践してください。
4	・旭分校ならではの「キャリア教育」の実践をつくり上げて頂ければ期待しております。 ・自分の人生は「子ども自身が様々な声を得て、選択し、決定する」という過程を踏みながら形成していくものと考えられます。そのためには、子ども自身と十分に対話する時間を設けることが必要かと思われます。同時に、さまざまな生き方をしている方の体験を聴くことを通じて、一人一人が表面にはまだ表れていない思いをゆつりと浮上させようような働きかけも重要かと思えます。 ・前籍校との連携は、双方の問題意識が異なる場合は困難だと感じました。 ・生徒の実態によっては、復帰しないまま進路を決めていく生徒もいるので、個別支援計画を充実したものに高校へつないで欲しいと思います。
4	・医療・前籍校との連携のもと、支援について共通理解ができたことの意味は大きいと思います。相談支援の取り組み等、センター的機能を十分に発揮していただくと願っています。 ・医療関係者、福祉関係者、原籍校、家族、本人を含めた相互に理解し合う会をさらに進めて欲しい。また、子どもと家族にとって有効に機能する支援計画書の改善にも取り組んで欲しい。貴校のような機能をもった支援学校は県内に1つしかないため、先生方のご苦労は想像以上のものと推察しています。スクールカウンセラーへのPRを含めて、様々な職種の方々の知恵と力を活用していただきたいと願っています。 ・旭分校まで通うことのできない生徒もいると思いますので、コーディネーターの充実が必要だと考えます。 ・北病院の患者さんであるという特性の支援学校であり、医療との情報交換が密にとれるのはとてもメリットだと思います。情報面での理解や指導方法など、医師のアドバイスが受けられる環境なので、是非リアルタイムに連携を図り個別支援計画を適宜に修正し、子どもにあった指導を行って欲しい。